

田名歴史カルタマップ



田名って
おもいっしょ!
 いろんな見どころがあるよ
 みんなで探してみよう!



次の五十音は地図上で
 限定されないため、
 記載されていません。

け ち に ね へ

田名歴史カルタ 解説

あ 雨窪のバス停から水道清水向かって、進んだ辺り。雨が降るとび野水が流れる低い窪地が多く、こう呼んだといわれる。

い 縄文時代、田名高校付近には竪穴住居14棟 掘立柱式建物14棟の跡が発見され、半在家から八瀬川沿いにかけて、おおきな集落があったと思われる。

う 鵜飼免は現在の清水地区の東側に位置し、領主の配慮で年貢を免除されたことによりそう呼ばれるようになった。

え 久兵衛は私財をなげうち、28年間の歳月をかけ洪水から田を守るため堤防を築いた。田名村はたくさんのお米がとれるようになった。高田橋のふもと付近に堤防跡の碑がある

お 田名リバーサイド付近、坂の途中に痕跡が見られる。

か 下九沢の人々が鳩川の対岸の土地を開墾した。入植当時の苦勞が土地の名前になったと言われる。

き 田名リバーサイド坂を下りきった左手100m先に見られる。

く 昔、久所は公文所、という役所のようなものがあり「文」の字が省略され公所(くしよ)そして久所となった。

け 一つ目小僧別名「八日僧」といってだらしない家を見つけ、不幸をもたらしたり、悪さをする子どもをこらしめたりするといわれた。

こ 田名では、かつて養蚕が盛んで農家の生計を支えていた。堀の内の「蚕影山」では蚕にちなんだ祭礼がおこなわれ、堀之内自治会では行事として今も続いている

ぬ 1500年頃の田名には大きな榎の木が生い茂っていたといわれる。明治3年、英人マクレガーが久所の吉田屋旅館に泊まり、日本で初めてカヌーで相模川を下る。

ね 女の人たちが、大安などの吉日に集まり、念仏を唱えました。お茶菓子を持ち寄り楽しく講を行った。

の 四ツ谷には橋をかけて渡ったという言い伝えがある。野水は、梅雨や台風など長雨が続きと、三本掘りや八瀬川へ集まって流れた。

は 夢の丘小と緑化センターの間にある、縄文時代早期の住居跡。矢じり、狩猟に使った落とし穴などが発見された。

ひ 陽原から水郷田名に下りる狭い坂をいう。昔、狸のたたりを恐れ「お狸さま」の祠を作った。田名の民話として語りつがれている。

ふ 川を行き来する男たちを守るため、地蔵は舟形の台座の上に置かれている。今は塩田桜橋の信号から塩田自治会館に移された。

へ 田名は、縄文時代に人が住み、平安時代には今と同じ九つの小集落があった。

ほ 平安時代、田名二郎兵衛広季が田名の地域を支配していた。館の周囲に堀をめぐらしたことから堀の内と呼ばれるようになったらしい。

ま 源頼朝が鎌倉幕府を開く一年前からはじまる。その年の豊作を占い、昔は邪気を払って豊作になるように祈った。

み 田名村の入会地は戦国時代の無量光寺の文書に記されている。昔は、田畑の肥料や馬の飼料に下草を刈ったり、燃料や暖房の小枝、薪の伐採を行った。

む 在家役は年貢を半分免除され、平日は農民として田畑を耕し、非常時には武士として戦いをしたという説もある。

さ 1月は寒中水泳、5月は鯉のぼり、8月には花火大会が行われ大勢の人でにぎわう。

し 石切り場より下流の断崖絶壁に横穴が掘られている。修行僧が入定(にゆうじょう)という修行のため使ったという説もある。

す 陽原段丘と氾濫原の水郷田名では数十メートルの高さの違いがある。

せ 半在家、陽原、塩田地区の八瀬川沿いには、昔から水車で、精米、製粉を行っていた。また近年は蚕の糸取りも行っていた。

そ 江戸時代、明治維新まで田名は烏山藩大久保氏の領地だった。堀の内自治会館の近くに烏山藩制札場跡の碑がある。

た 高田橋は、高峰の「高」と田名の「田」をとって名づけられた。大正十三年に木の大橋ができた。

ち インターチェンジ「相模原愛川」ができ、今、田名は大きく変わっていく。

つ 田名団地を中心にした一帯を椿森という。(下水道工事の時偶然集落の跡を発見)

て 昭和の初め、東京渋谷より鶴川、淵野辺、上溝、田名、愛川を結ぶ当時としては、遠大な鉄道敷設の計画があった。昭和2年4月着工、工事は順調だったが、一部用地買収が不調、不況と重なり中止された。四ツ谷八千代銀行の裏に痕跡がある。

と 長雨が続きと地下水が浅いところから湧きだし畑の畔が川のようになった。

な 安政年間に作られた。望地、陽原、半在家、塩田の人が耕す田に水を送ることができるようになった。資金不足を、望地の金井津衛門は蓄えておいた稗、粟などで援助した。

め 田名学校では、1860年頃二つの寺で読み書き、そろばんを教えた。

も 江戸時代宝永4年、富士山噴火の2年後に望地馬坂に「女人講中」が庚申塔を作った

や 雨水が水を通さない岩盤のところまで来て湧水となる。水道のない時代「やつぽ」では、野菜、洗濯物、農機具、などを持ち寄って洗い、日常生活に欠かせない天然の洗い場で、くらしに役立った。

ゆ 県内でも湧水地特有の植物がある。記録が少なくなったヒロハンソウ、ミゾホウズキ、オランダガラシ、オニスゲ、サワグルマなどを、見ることが出来る

よ 昔は、現在の四ツ谷交差点辺りに四軒の家があり、大山街道と久保沢街道が交わる場所に道標や道祖神がつくられた。

ら ご神燈は江戸時代に奉納された。戦前は歌舞伎芝居の一座を迎え、唄や踊りでにぎわった。

り 今は解体整地され古墳の位置も分からなくなっている。

る 水辺では、コサギ、ダイサキ、カイツブリ、6月にはたくさんのお蝶が見られる。高田橋周辺は水鳥の好観察地でもある。

れ もとは、江の島におかれていたが、養蚕の守り神としてこの地に祭られた。弁天様は市の重要文化財に指定されている。

ろ 六地蔵は、1本の石柱の一面に二体ずつ、三面に地蔵様が刻まれている。江戸時代子供をいたんで建てられたと伝えられる。

わ 滝の渡しは昭和47年まで運行され、葉山下河原と田名を結んでいた。

ん 民間信仰の厄除けの守り神として信じられ、小さな絵馬が社に奉納されている。